

「学校再編に関する付帯決議」可決

一般会計予算を裁決するに先立ち、付帯決議が出されました。

「学校再編に関する付帯決議」要旨
原案通り再編予算を可決するにあたり付帯決議する。

「府民牧場」の能勢町への譲渡は現時点では正式な決定ではない為、測量設計費の執行は慎重にする必要があり、正式に譲渡決定されてからにすべきである事。

また町民の方々から「更なる話し合いが必要である」との要望もある事から、今後用地譲渡決定までの間、新学校構想について更なる理解を求めるようにする事を要望する。

反対討論

八木 修

学校建設費を含む予算案可決を前提の付帯決議で、提出者も過半数の8名なので討論するのむなしくなります。まちづくり全体も含め議論が十分になされていませんし、学校再編は住民の大多数の合意も得られていません。住民が望む学校にはなっていない現状で、行政主導でどんどん進められることに對して危惧している。もう少し慎重な審議が必要だ。

賛成討論

今中 喜明

この議論は、二年前、六年前の町議選の争点の一つでもあった。校舎の耐震化・少子化の現状を考えると早急に進捗する必要がある。しかし、一部の方にまだ理解を示されていないことを考え、学校建設予定地が能勢町の土地として自由に使える段階をもって予算の執行をすること。

反対討論

谷 義樹

付帯決議に書かれている「大阪府の同意」「さらなる住民合意」の必要性については、同じ認識を持っている。しかし、予算を認めただ上というのでは、「片手で剣を構えながら話ししよう」というようなもので、話し合いにならない。

予算は一定の住民合意ができた段階で、計上すれば良いという考えで、今回私は、当初予算から学校建設関係の予算を削除する修正案を提出した。よって、当初予算の承認を前提にした「学校再編に対する付帯決議」については反対する。

賛成討論

岡本 ひとし

能勢の未来を担う子ども達のために、より良い教育環境の整備が必要不可欠

だと思われま。しかし、住民との対話や環境整備に十分と配慮することが、今最も重要であり、引き続き議論する姿勢を堅持し、住民参加の新しい能勢の地域に密着した教育環境の整備に努めることを心より切望するところでありま。

反対討論

濱 諱弘

この付帯決議は原案を通すことを前提としており、予算執行は止まるもの、おおさか府民牧場はつぶれることになりま。

毎年15万人の親子が来るおおさか府民牧場は能勢の観光の目玉であり、能勢にとって必要なものです。

おおさか府民牧場が能勢町にとって必要なのか、必要ないのか、議論は全くされておらず、議論をするべきです。反対しま。

賛成討論

原田 健志

今回の大震災を目の当たりにした中で、耐震化・少人数化に対して早々にすべき事に対して対案を示さないまま議論のみ継続をするという事は正論とは思えない。町もこれまで理解を求めた中で覚悟・熱意・誠意が足りなかつたと思う。私はこの付帯決議を受けて、予算の結果が覚悟・熱意・誠意のない未来・将来しか生まなかつたと思えば自らの不明を認めた上で自身の身を命をかける覚悟である。予算執行される方にも相応の覚悟でこれからを進められるよう注視をしていく。

修正案賛成討論

木戸 俊治

学校問題について、まだ住民の理解が十分に得られていないという段階で、予算を承認するのは問題であると思われる。

どうしたら子ども達が帰ってくるのか。そのような議論も大事ではないかと思っております。

明治以来一つのくくりとしてやってきた地域を大事に十分議論し、合意が得られた中で予算を通していくことが必要であると考えます。よって今回については、修正案のように原案から削除して採決するものと、修正案賛成の立場より反対討論をさせていただきました。

賛成討論

長尾 義和

一般会計予算の中で、最も注目されている学校再編整備予算をめぐっているような意見が出ています。地域と学校の関わりも理解できるが、この学校再編整備は、一体誰のためにするのか。次代を担う児童生徒のことを第一義に考えるべきである。

今回の学校再編整備予算は、能勢学校新構想に基づく新たな学校の整備に当然必要であるが、まだ住民の理解が十分得られていないという意見もあることから、この付帯決議によってさらなる理解が得られるものと信じ、賛同する。